令和５年度 第３回 陵南中学校 学校運営協議会　議事録

令和６年２月１４日（水）１８：００～

加古川市立陵南中学校　第２会議室

1　出席者

| 番 | 区 分 | 役　　職 | 名　前 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 会 長 | 市人権・同和教育協議会長 | 浜 田　時 子 | |
| 2 | 副会長 | 神野地区町内会長 | 石 見　純 一 | |
| 3 | 委 員 | 野口北地区町内会連合会長 | 岸 本　博 文 | |
| 4 | 委 員 | 陵南中学校前ＰＴＡ会長 | 竹 中　敏 典 | |
| 5 | 委 員 | 陵南中学校ＰＴＡ会長 | 別 府　英 雄 | |
| 6 | 学 校 | 校長 | 沼 田　圭 子 | |
| 7 | 学 校 | 教頭 | 柳 浦　康 宏 | |
| 8 | 学 校 | 教務 | 和 田　雅 之 | |
| 9 | 学 校 | 主幹教諭（学習指導） | 藤 井　祐 子 | |
| 10 | 学 校 | 教諭（生徒指導） | 日 坂　佳 祐 | |
| 11 | 学 校 | 教諭（道徳・人権教育） | 西 尾　由紀子 | |
| 12 | 学 校 | 教諭（生きる力を育む教育） | 加 藤　真 也 | |

2　議事及び進行

（１）開会挨拶（浜田会長）

（２）学校長挨拶

（３）学校評価について

①学習指導の充実

（学校から説明）

・基礎・基本の更なる定着のため、生徒の学習状況を把握した丁寧な授業づくりに努める。

・ＩＣＴを効果的に活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るとともに、生徒及び教員の更なる活用を推進する。

・家庭学習の充実を図る等、生徒が主体的に学びに取り組もうとする態度を養う。

（委員）２年生の家庭学習への取組が他学年より低い。どのような要因が考えられるか。

（学校）「自ら家庭学習を毎日している」と質問したため、宿題以外の学習を想定していたと思われる。２年生では、部活等に割かれる時間が増えることも要因として考えられる。

（委員）ドリルパークとはどのようなものか。

（学校）１人１台の学習者用端末で使用している学習コンテンツのひとつで、ＡＩ機能を持つ学習ドリルである。生徒は授業の復習や自主学習に活用している。

（委員）関係者の評価はＡとする。

②生徒理解に基づく生徒指導

（学校から説明）

・「困ったときに先生に相談できる」と回答する生徒が多い。今後もアンケートや教育相談を活用しながら生徒と向かい合う機会を大切にしたい。

・生徒の規範意識に対する自己評価は高いが、客観的な評価と齟齬がある。登下校のマナーや交通ルール、地域での生活等、引き続き注意を呼び掛けたい。

・生徒一人一人の良さを認め、自己肯定感や自己有用感を育む取組を推進したい。

（委員）学校の取組を考えると、自己評価はもっと高くてもよいと思う。

（委員）生徒が自分の困り事を先生に相談すると答えていることは、とても素晴らしい。

（学校）定期的に生徒の声を聴く機会を設けている。今後も継続したい。

（委員）不登校の状況を伺いたい。

（学校）本校も全国的な状況と同様に、増加の傾向が見られる。対策の１つとして、全校でソーシャルスキルトレーニングを定期的に行い、人間関係やコミュニケーションに関わる技術や技能を学ぶ機会を設けている。

（委員）関係者の評価はＡとする。

③道徳・人権教育の充実

（学校から説明）

・生徒は落ち着いた学校生活を送っているが、教職員は研修や情報収集を通じて、常に人権感覚を磨くための取組が必要である。

・アセスや教育相談、アンケートを活用して生徒の不安やＳＯＳに気付き、いじめの未然防止に努めたい。

・アフターコロナ期における行事等の見直しを通じて、生徒の成長につながる体験的な活動を精選して実施に向けた検討を続けたい。

（委員）これからの時代は多様性の尊重が重視されるため、道徳の重要性や授業の難しさを感じる。

（学校）道徳教育を通じて、生徒が多様な価値観を認め、社会の一員として考えて行動できるような力を育てたい。

（委員）道徳の授業をする先生方には高いスキルが求められているが、生徒は素直で柔軟に受け入れることができている。人権ふれあいフェスティバルの感想からも、素直に話を聞き、受け入れ、考えていることがよく分かる。

（委員）関係者の評価はＡとする。

④生きる力を育む教育の推進

（学校から説明）

・生徒の防災意識には課題があるため、年間を通じた指導計画に基づき、体験的な活動を取り入れる等、より実践的な学びを行う。

・特別な支援が必要な生徒は増加傾向にある。生徒及び保護者の教育的ニーズの把握に努め組織的な対応により個に応じた指導の充実を図る。

・日常の教育実践に加えて、外部の専門家を招聘してキャリア教育や食に関する教育の充実を図ることができないか検討したい。

・スクリレやホームページを活用した情報発信により、家庭との連携の充実を図る。

（委員）スクリレの導入に効果はあったか。

（学校）大変効果があった。保護者にとっては、連絡漏れを防ぐだけでなく、学校の様子を知る機会になっている。学校としては、欠席連絡の対応の負担が大幅に削減され、業務改善につながっている。

（委員）能登半島地震に関する報道や南海トラフ地震の予測を見ると、防災教育の重要性を感じるが、実際に震災を経験していない中学生に防災意識を養うことは大変難しいように思う。

（学校）防災教育の一環として校外学習では人と防災未来センターを訪れ、阪神・淡路大震災の体験談を伺ったり資料や映像から学んだりする機会を設けている。今後も、生徒にとって防災・減災を身近な課題として捉えられるよう、指導方法等を工夫したい。

（委員）関係者の評価はＡとする。

⑤研修活動の充実、仕事と生活

（学校から説明）

・技術の発達や新たな教育ニーズに対応するために、校内研修や研究授業の活性化させる。

・ＩＣＴやスクールサポートスタッフ等を効率的に活用することで校務の効率化を図り、必要な時

間の確保に努める。

・ウェルビーイングの向上の観点から、教職員が自ら業務改善に向けた提案と実践ができる機会を設けるとともに、業務の役割分担・適正化に向けた検討を続ける。

・勤務時間の適正化に向け、先進的事例の共有や啓発を通じて教員の意識改革を図る。

（委員）学校に求められる業務が多岐に渡り、負担が増加しているように感じる。

（学校）学校では、これまでの教育実践に加えて、新たな教育課題への対応が求められている現状はある。

（委員）スクールサポートスタッフはどのように活用しているか。

（学校）プリント等の印刷・仕分け等の配付準備、電話対応、掲示物の張替え、各種資料の整理等、教員の業務を支援していただいている。教員の負担軽減に大変効果がある。

（委員）教員の超過勤務について、多い状況があるか。

（学校）教員の超過勤務の上限は月４５時間以内と定められているが、時間内に収まる教員は全体の１／３程度である。原因としては、授業等の準備、部活動の指導、保護者の対応等がある。

（学校）多くの業務があるが、教員が一人で抱え込まないよう、チームとして対応するように心がけたい。

（４）その他

・次年度の学校運営協議会について

・卒業式の案内について

（５）閉会挨拶（石見副会長）